

吉田明弘<sup>1</sup>: 報告—国際第四紀学連合第17回大会  
Akihiro Yoshida<sup>1</sup>: Report—XVII INQUA Congress

国際第四紀学連合第17回大会 (XVII INQUA) が2007年7月28日(土)～8月3日(金)にオーストラリア、クイーンズランド州、ケアンズで開催された。この大会では“Heat Engine of the Quaternary”をトピックとし、会場はケアンズのヨットハーバーからほど近い Convention Center で行われた。会場は、ケアンズの町の中心から徒歩で10分ほどであり、宿泊および食事などにおいて非常に便利な立地であった。参加者は世界各国からあったものの、南半球での開催と言うこともあり、ヨーロッパからの若手研究者の参加が少ないように見受けられた。

7月28日は Opening Ceremony (図1) があり、オーストラリアらしくアボリジニによる伝統的な音楽およびダンスから始まった。この日の夕方には、会場において Welcome Reception (図2) も催され、参加者の懇親が深まった。本格的な発表は29日から開催され、約19のセッションとポスター展示が行われた。この大会では、口頭とポスターを合わせて約1400件の発表があった。また毎日 Plenary Session が開催され、参加者全員で活発な議論が交わされた。31日は、Mid-Congress Field Trips のため発表は行われなかった。

残念ながら、私は飛行機の関係で8月2日に帰国せねばならなかったが、2日の晩には ANSTO Congress Dinner と Sir Nicholas Shackleton Medal の授賞式および受賞公演が、3日は Closing Ceremony と Farewall Function, Poster Presentation Award の表彰式があったようである。



図1 Opening Ceremonyの様子。



図2 Welcome Receptionの様子。

このように活発な議論が繰り返されるなかで、運営の面で不満の声が多く聞かれた。まず、中国の研究者による発表のキャンセルが非常に多く目立った。このため発表スケジュールが各セッションで変更になり、興味を持っていた発表を聞き逃してしまうなど、がっかりさせられる場面も度々あった。また、大会期間の途中で改善されたものの、ポスター会場は非常に狭く、落ち着いて発表および質疑応答をすることができない状態であった。

この大会では、多くのセッションが同時に行われていたため、すべてのセッションをみることはできなかったが、植生史に関連する発表で発表件数が多かったのは気候変動や考古に関するもので、たとえば Marine Isotope Stage 11, Dynamics of terrestrial systems, Holocene human environment などのセッションが開催された。また、世界の各地域におけるセッションがあり、そこにおいても地域的な植生史についての発表があった。さらに、新たな手法を紹介した Theory & method in Quaternary palynology のセッションも行われ、技術・方法論についても活発に議論がなされた。

次回の大会は、2011年スイス、ベルンで開催される予定である。日本からの植生史関係の参加者が増えることを期待するとともに、特に日本の若手研究者の積極的な参加を望む。

(<sup>1</sup> 〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内12-2 東北大学植物園)